

	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒の車いす体験 競技用車いすの操作の説明 各クラス代表者5名による車いすリレー • 生徒と選手による車いすバスケットボール体験 クラス対抗形式 (クラス代表5名と選手1名でチームを形成) 坂野先生の実況解説のもと4試合を実施 ※教員も1チーム組織し生徒チームと対戦  <ul style="list-style-type: none"> • 選手の講話 6グループにわかれ車座になって対話 障害者となった経緯、日常生活の工夫、車いすバスケットとの出会いなど 質疑応答  <ul style="list-style-type: none"> • 生徒代表謝辞と終了のあいさつ • 感想文記入(教室にもどって)
<p>6 主な成果</p>	<p>事後の感想文を読んでいると、車いすバスケットボールの体験と選手による講話は、生徒にとって、障害を持つ人の存在が身近になったこと、障害をもったことで直面した負の感情や困難に向き合い、あきらめずに克服しようとする強い精神力と明るさなどに触れたことなどより深く障害者の問題を考えるきっかけになったと思われる。改めて、障害を持つ人との共生の大切さを意識し、自分の生き方を考えていくきっかけになったと思われる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、来年度に延期されたオリンピック、パラリンピックへの生徒の関心も高められたと思われる。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>実際に生徒が競技用の車いすに乗ることで、車いすの操作の難しさや動きに制約があることなどを実体験させたこと。</p> <p>選手との講話および質疑応答により、障害のある方の生の声を生徒が聞くことができるように取り組んだこと。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルスの感染予防対策として、生徒・選手にマスク着用とこまめな手指消毒をお願いしたこと。講和の時も間隔をあけて車座に座るようにしたこと。</p>

<p>8 主な課題等</p>	<p>生徒にとっては、車いす体験・車いすバスケットボールの競技体験・選手との対話などは貴重な体験である。このことは、事後に担任がホームルームで聞いた生徒の声でもある。</p> <p>ただ、限られた時間内での取組のため、生徒全員が車いすを体験できないことが課題である。少しでも多くの生徒が車いす体験をできるような工夫を検討したい。</p> <p>事前学習・事後学習を通じて、障害をもつ人と共に生きていく社会であることの理解を深めていくこと、偏見や誤解を取り除くこと、共に生きる社会を形成するうえでどのような考え方をもつべきかなどを考えさせる機会としていきたい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>2年生の人権学習として、来年度も実施したい。</p>